

# デイリー・ジーザス・ニュース #175

## イエスはユダヤで宣教し、弟子たちを訓練する

イエスは弟子たちを弟子としての基礎を訓練する

イエスは最大の戒めである「神への愛」について教える  
ルカ10. 25-28

25 ある時、律法学者がイエスを試そうとして立ち上がり、「先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか」と尋ねました。

26 「*律法には何と書いてあるのですか*」と彼は答えた。「*どう読むんですか?*」

27 彼は答えました。「『心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』また、『隣人をあなた自身のように愛しなさい。』」(申命記6章4節、レビ記19章18節)

28 イエスはこう答えました。「*あなたの答えは正しい。これを常に実行しなさい。そうすればあなたは生きるであろう。*」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = MT、マーク = M、ルカ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、*赤いイタリック体はイエスの言葉を示します*。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	旅の途中、ユダヤのどこかで
タイムライン	9月(31月)
イエスの生涯の文脈	第六段階: イエスの後期ユダヤ教宣教
	D. イエスはユダヤで宣教し、弟子たちを訓練する
	1. イエスは弟子たちを弟子としての基礎を訓練する
タイトル	i. イエスは最大の戒めである神への愛について教える

コメント:

## デイリー・ジーザス・ニュース #175

今日の朗読は、弟子としての生き方の基礎に関するイエスの5つの教えのシリーズの第一歩です。愛を優先すること（2つの朗読）、イエスの言葉に従うこと（1つの朗読）、そして祈り（2つの朗読）です。祈りとイエスの言葉は、私たちが神の愛に応え、イエスのように神と他者、そして自分自身を愛することができるように、私たちを備えさせてくれます。愛、祈り、そして言葉の相互に関連する役割こそが、弟子としての生き方の核心を成すのです...イエスによれば。

今日の聖書箇所は、神と他者への愛の優先順位に関する二つの朗読から始まります。律法学者、つまりトーラーの専門家が、イエスのもとに重要な質問をしました。「永遠の命を得るには、何をすればよいのでしょうか？」（10.25）これは時代を超えた問いです。絶対的な答えはあるのでしょうか？宗教や哲学によって答えは異なります。しかし、これは本質的な問いです。なぜなら、私たちが生きていないなら、他の何ものも意味がないからです。

イエスによれば、永遠の命を得るための第一歩は、私たちが罪人であるため、自分自身では決してそれを得ることができないという認識です。私たちの罪は、神と共に永遠の命を得る資格を奪い、神から永遠に引き離された人生へと私たちを定めます。私たちが自らの罪深さを認めるとき、私たちはイエスのもとに赦しを求め、神の恵みによる無償の賜物として永遠の命を受け取ることができるのです。

したがって、永遠の命はイエスへの信仰を通してのみ得られるか、そうでなければ得られないのです。律法学者はこの現実を理解しておらず、受け入れることもできませんでした。彼は自分を正当化しようとしていました。自分の独善性によって永遠の命を得ることができると考えていたのです（10.29）。イエスは律法学者の心を知っておられたので、彼が自分の罪深さと、メシアによる救いの必要性という真実を受け入れるよう導こうとされました。そこでイエスは、律法学者に、自分の独善性によって永遠の命を得る可能性について、聖書は何と教えていると思うかと尋ねました。

律法学者は的確に答えました。トーラーを知るすべてのユダヤ人の信仰の根幹を成す、申命記6章4節の「**心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい**」という言葉です。そして、レビ記19章18節の「隣人を自分自身のように愛しなさい」という戒めを付け加えました。このように、神へのすべてを捧げる愛、つまり他者を自分自身のように愛することこそが、神との正しい関係を築く上で人生で最も大切な優先事項なのです。ここまでは順調です。

律法学者にとっての問題は、彼が自己欺瞞に陥っていたことでした。彼は、自分がどれほど神と他者への愛を失っていたかに気づいていませんでした。

愛せよという戒めは、他のすべての戒めが依拠する、神からの極めて重要な戒めです。罪人である私たちが、他のどの戒めよりも従うことのできない戒めです。この戒めは、私たちの罪を悟らせ、それを満たせなかった私たちがイエスのもとへ導き、赦しを与えてくれるはずですが、律法の目的は、律法に従おうとするすべての人に、私たちが罪人であり、律法を破る者であり、私たちが本来あるべき愛を全く失ってしまった神からの赦しと憐れみを必要としているのだと気づかせることでした。私たちが自らの罪の深さに気づいた時、私たちは罪から私たちを救ってくれる神、イエスからの救いを受け入れる準備が整うのです。

## デイリー・ジーザス・ニュース #175

大いなる戒めは、イエスの弟子すべてにとって究極の優先事項です。イエスは、神と他者を愛するという戒めを成就するために来られました。旧約の戒めに、すべてを変える重要な新しい限定文を加えることによつてです。イエスはこう言われました。「**わたしがまずあなたがたを愛したように、あなたがたも愛しなさい。**」(ヨハネ13:34-35)

イエスがまず私たちを愛してくださったので、私たちは神を愛し、そしてイエスがまず私たちを愛してくださったように、他の人々を愛する力を与えられます。イエスご自身が、大いなる戒めへの従順を可能にする力です。愛を優先することは、弟子としての最も重要な原則です。イエスはこの律法学者との出会いを通して、そして次に朗読する「善きサマリア人」のたとえ話を通して、弟子たちに教えようとしたのです。

注：「愛の栄光...イエスの教えによれば」ウェブサイトには、イエスの愛に関する教えの革命的な性質について語る8つの投稿シリーズが掲載されています。最初の投稿は[こちらからご覧いただけます](#)。最初の投稿をお読みになり、続きを読みたい場合は、ページの一番下までスクロールして次の投稿へのリンクをクリックしてください。この手順を繰り返すことで、すべての投稿をゆっくりとお読みいただけます。

応用：

*あなたに対する神の愛を信じ、受け取ることは、神を愛し返すこと、そして他の人々をも愛することへの鍵です。*

*あなたに対する神の愛についての理解と経験をどのように深めることができるでしょうか。*

*どのようなリソースを使用しますか？*